

# 複素二次超曲面の実形の Hamilton 体積最小性について\*

酒井 高司 (首都大学東京理工学研究科)

Kähler 多様体内の Lagrange 部分多様体の Hamilton 変形の下での変分問題は Y.-G. Oh [6] により研究が始められた。Kähler 多様体  $(M, J, \omega)$  の Lagrange 部分多様体  $L$  は、任意の Hamilton 微分同相写像  $\phi \in \text{Ham}(M, \omega)$  について

$$\text{vol}(\phi L) \geq \text{vol}(L)$$

をみたととき Hamilton 体積最小であるという。Hamilton 体積最小な Lagrange 部分多様体の非自明な例として知られているものは非常に少なく、Kleiner と Oh [6] による  $\mathbb{C}P^n$  内の  $\mathbb{R}P^n$  と入江博氏・小野肇氏との共同研究 [3] で示した  $S^2 \times S^2$  内の  $S^1 \times S^1$  だけであった。

コンパクト型 Hermitte 対称空間  $G/K$  の対称的反正則等長変換  $\sigma$  の固定点集合として与えられる全測地的 Lagrange 部分多様体  $L$  は  $G/K$  の実形と呼ばれる。コンパクト型 Hermitte 対称空間の実形は分類が与えられており、複素二次超曲面

$$Q_n(\mathbb{C}) = \{[z] \in \mathbb{C}P^{n+1} \mid z_0^2 + z_1^2 + \cdots + z_{n+1}^2 = 0\} \cong SO(n+2)/(SO(2) \times SO(n))$$

の実形は  $S^{k,n-k} = (S^k \times S^{n-k})/\mathbb{Z}_2$  ( $k = 0, 1, \dots, [n/2]$ ) と合同になる。 $S^{1,1} \cong S^1 \times S^1 \subset S^2 \times S^2 \cong Q_2(\mathbb{C})$  の Hamilton 体積最小性の一般化として、 $Q_n(\mathbb{C})$  の実形  $S^{k,n-k}$  に対して次のような Hamilton 変形の下での体積評価を与えることができる。

**定理 1** ([4]).  $Q_n(\mathbb{C})$  の実形  $S^{k,n-k}$  は任意の Hamilton 微分同相写像  $\phi \in \text{Ham}(Q_n(\mathbb{C}), \omega)$  について

$$\text{vol}(\phi S^{k,n-k}) \geq \text{vol}(S^{0,n})$$

をみとす。特に、 $Q_n(\mathbb{C})$  の実形  $S^{0,n} \cong S^n$  は Hamilton 体積最小である。

定理 1 を証明するために、まず Lagrange 部分多様体の交点数に関する Arnold-Givental 不等式の一般化が必要になる。Arnold-Givental 不等式はシンプレクティック多様体内の Lagrange 部分多様体  $L$  とその Hamilton 変形  $\phi L$  の交点数の評価式である。論文 [4] ではある条件の下でコンパクト型 Hermitte 対称空間の互いに合同とは限らない 2 つの Lagrange 部分多様体  $L_0$  と  $L_1$  の組みに対する Floer ホモロジーを求め、それにより次のような Arnold-Givental 不等式の一般化を得た。

**命題 2** (一般化された Arnold-Givental 不等式).  $G/K$  を既約なコンパクト型 Hermitte 対称空間とし、 $L_0$  と  $L_1$  を  $G/K$  の実形とする。このとき、 $L_0$  と  $\phi L_1$  が横断的に交わるような任意の Hamilton 微分同相写像  $\phi \in \text{Ham}(G/K, \omega)$  について、

(i)  $G/K = G_{2m}^{\mathbb{C}}(\mathbb{C}^{4m})$  ( $m \geq 2$ ) で、 $L_0$  は  $G_m^{\mathbb{H}}(\mathbb{H}^{2m})$  と合同、 $L_1$  は  $U(2m)$  と合同な場合は

$$\#(L_0 \cap \phi L_1) \geq 2^m,$$

(ii) それ以外の場合は

$$\#(L_0 \cap \phi L_1) \geq \min\{SB(L_0, \mathbb{Z}_2), SB(L_1, \mathbb{Z}_2)\} \quad (1)$$

が成り立つ。ここで、 $SB(L_i, \mathbb{Z}_2)$  ( $i = 0, 1$ ) は  $L_i$  の  $\mathbb{Z}_2$  係数 Betti 数の和を表す。

\*本研究は入江博氏 (東京電機大学)、田崎博之氏 (筑波大学) との共同研究である。

また,  $Q_n(\mathbb{C})$  は  $\mathbb{R}^{n+2}$  内の向き付けられた 2 次元部分空間全体のなす実 Grassmann 多様体  $\widetilde{G}_n(\mathbb{R}^{n+2})$  と同一視され, 次のような Lê による Grassmann 多様体における積分不等式が成り立つ.

定理 3 (Lê [5]). 複素二次超曲面  $Q_n(\mathbb{C}) \cong \widetilde{G}_n(\mathbb{R}^{n+2})$  内の実  $n$  次元部分多様体  $N$  に対して

$$\int_{SO(n+2)} \#(gS^n \cap N) d\mu_{SO(n+2)}(g) \leq 2 \frac{\text{vol}(SO(n+2))}{\text{vol}(S^n)} \text{vol}(N) \quad (2)$$

が成り立つ.

定理 1 の証明 (2) において  $N = \phi S^{k, n-k}$  ( $k = 0, 1, \dots, [n/2]$ ) とおくと, (1) より

$$\begin{aligned} \text{vol}(\phi S^{k, n-k}) &\geq \frac{\text{vol}(S^n)}{2\text{vol}(SO(n+2))} \int_{SO(n+2)} \#(gS^n \cap \phi S^{k, n-k}) d\mu_{SO(n+2)}(g) \\ &\geq \frac{\text{vol}(S^n)}{2\text{vol}(SO(n+2))} \int_{SO(n+2)} 2d\mu_{SO(n+2)}(g) \\ &= \text{vol}(S^n). \end{aligned}$$

□

注意 4. Gluck-Morgan-Ziller [2] は  $n$  が 4 以上の偶数のとき,  $Q_n(\mathbb{C})$  の実形  $S^n$  はホモロジー類の中で体積最小であることを示している. 一方,  $Q_n(\mathbb{C})$  の奇数次のホモロジーは消えているので,  $n$  が奇数の場合には実形  $S^n$  はホモロジー類の中で体積最小にはならない. 定理 1 は,  $n$  が奇数の場合に Hamilton 体積最小な Lagrange 部分多様体の新しい例を与えている.

注意 5. 既約なコンパクト型 Hermite 対称空間の実形の Hamilton 安定性は Oh [6], Amarzaya-大仁田 [1] により決定されており,  $Q_n(\mathbb{C})$  の実形  $S^{k, n-k}$  は  $n-2k \leq 2$  の場合に限り Hamilton 安定となる.  $S^{0, n} \subset Q_n(\mathbb{C})$  および  $S^{1, 1} \subset Q_2(\mathbb{C})$  以外の場合に, これら Hamilton 安定な実形が Hamilton 体積最小になるかどうかは未解決である.

## 参考文献

- [1] A. Amarzaya and Y. Ohnita, *Hamiltonian stability of certain minimal Lagrangian submanifolds in complex projective spaces*, Tohoku Math. J. (2) **55** (2003), 583–610.
- [2] H. Gluck, F. Morgan and W. Ziller, *Calibrated geometries in Grassmann manifolds*, Comm. Math. Helv. **64** (1989), 256–268.
- [3] H. Iriyeh, H. Ono and T. Sakai, *Integral geometry and Hamiltonian volume minimizing property of a totally geodesic Lagrangian torus in  $S^2 \times S^2$* , Proc. Japan Acad. **79** Ser. A (2003), 167–170.
- [4] H. Iriyeh, T. Sakai and H. Tasaki, *Lagrangian Floer homology of a pair of real forms in Hermitian symmetric spaces of compact type*, preprint.
- [5] Lê Hồng Vân, *Application of integral geometry to minimal surfaces*, Int. J. Math. **4** (1993), 89–111.
- [6] Y.-G. Oh, *Second variation and stabilities of minimal lagrangian submanifolds in Kähler manifolds*, Invent. Math. **101** (1990), 501–519.